



防衛 北海道

Bouei Hokkaido
December 2017
Hokkaido
Defense Bureau
Ministry of Defense
Vol. 55

平成29年度方面隊戦車射撃競技会



写真提供：第7師団司令部総務課広報・渉外班

北部方面隊は、10月23日から28日までの間、北海道大演習場島松地区（恵庭市）の第1戦車射場において、平成29年度方面隊戦車射撃競技会を実施しました。

5日間にわたる激しい競技の結果、第72戦車連隊（北恵庭駐屯地）第5戦車中隊武田小隊が優勝し、統裁官である田浦北部方面総監からベスト・プラトゥーンの称号が授与されました。

*ベスト・プラトゥーン
「最も優れた小隊」という意味で、その名誉の証として授与された帽子は、今後1年間被ることを許されます。

目次

- 第37回防衛問題セミナー（札幌市）…………… 2～3
- 北海道防衛局講演会（登別市）…………… 3
- 防衛施設と周辺地域との調和を図るために…………… 4
- 祝 北部方面隊創隊65周年…………… 5
- 平成29年度北部方面隊総合戦闘力演習（北演29）…………… 5
- 絆（きずな）～富良野市と上富良野演習場の紹介～…………… 6
- 北海道防衛局長から感謝状の贈呈…………… 7
- 地方公共団体等に防衛白書を説明…………… 7
- 平成29年度北海道防衛施設地方審議会開催…………… 8
- 北海道殉職隊員追悼式…………… 8





第37回防衛問題セミナー

テーマ：弾道ミサイルの脅威とわが国の対応



北海道防衛局は、10月30日札幌市教育文化会館小ホールにおいて、「弾道ミサイルの脅威とわが国の対応」をテーマに、防衛省防衛政策局防衛政策課の中野防衛政策企画官と内閣官房副長官補付の伊藤内閣参事官を講師にお迎えし、札幌市自衛隊協力会の後援及び自衛隊札幌地方協力本部の協力をいただき、第37回防衛問題セミナーを開催しました。



北海道防衛局 古川局長

第1部「北朝鮮情勢と弾道ミサイル防衛について」

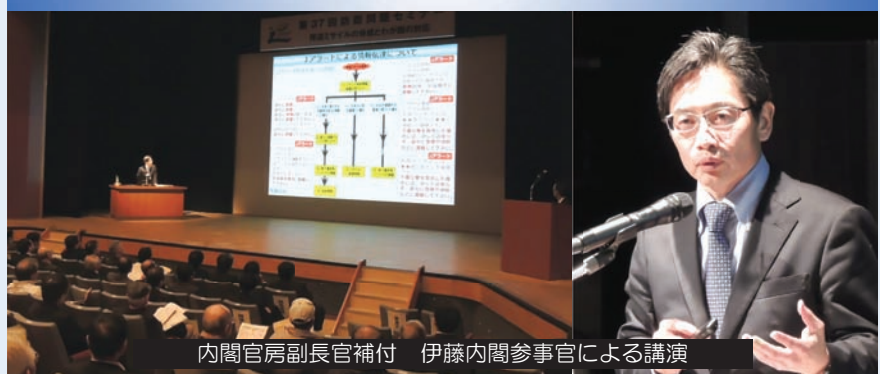


防衛省防衛政策局防衛政策課 中野防衛政策企画官による講演

第1部として、中野防衛政策企画官が「北朝鮮情勢と弾道ミサイル防衛について」と題し、北朝鮮の保有・開発する弾道ミサイルの動向や北朝鮮による核開発、わが国における弾道ミサイル迎撃システムの概要について、講演しました。

続いて第2部では、伊藤内閣参事官が「Jアラートによる弾道ミサイル情報の伝達について」と題し、Jアラート（全国瞬時警報システム）の概要や弾道ミサイル落下時の行動、弾道ミサイルを想定した住民避難訓練の実施について、講演しました。

第2部「Jアラートによる弾道ミサイル情報の伝達について」



内閣官房副長官補付 伊藤内閣参事官による講演

今回のセミナーには、台風の影響による悪天候にも関わらず約180名の方々にご来場いただき、皆様からは「弾道ミサイルの種類や迎撃方法についての説明がわかりやすく、理解が深められた。」、「Jアラート伝達後の行動が具体的に理解でき有意義であった。」など多くの感想が寄せられました。



講演後の質疑応答



当局では今後も、道内の皆様に防衛省の政策、自衛隊の活動等について、理解を深めていただくため、各地で防衛問題セミナーを開催していく予定です。

北海道防衛局講演会

登別市



登別市 小笠原市長

9月28日、北海道防衛局は、登別市長のご依頼を受け、登別市民会館において、古川局長による講演を行いました。

冒頭、主催者である小笠原登別市長から「講演会を通じて北海道防衛局、自衛隊に対する理解を深め、自治体及び市民の皆さんと良好な関係を築きあげることが期待している。」旨のご挨拶がありました。

古川局長は、「わが国を取り巻く安全保障環境と北海道の防衛施設の概要」をテーマに、最近の北朝鮮の弾道ミサイル発射の動向や、中国、ロシアの情勢、北海道の自衛隊施設の配置状況や当局が実施する防衛施設周辺対策事業の施策等について説明を行いました。



北海道防衛局 古川局長



当日は、登別市職員を始め、登別市連合町内会、登別商工会議所、登別観光協会の方々など、約80人の来場者が聴講しました。

当局としては、この講演が防衛省・自衛隊について理解を深めていただく一助になればと考えています。

防衛施設と周辺地域との調和を図るために ～民生安定施設整備事業（漁業用施設）の紹介～

防衛省は、「防衛施設周辺の生活環境の整備等に関する法律」に基づき、防衛施設の設置又は運用により生活又は事業活動が阻害されると認められる場合、防衛施設周辺の地方公共団体に対し、補助を行っています。

今回は、漁業経営の安定を目的とした施設として様似町（日高中央漁業協同組合）が整備した漁業用施設（水産物荷捌施設）をご紹介します。



対空射撃訓練のために設定される漁業制限水域が、日高中央漁業協同組合に所属する組合員の漁業経営に影響を与えていることから、防衛省は、漁業経営安定に寄与する事を目的に、水産物荷捌施設の整備事業に対し補助を行いました。

【補助事業の概要】

- 補助対象事業費：3億9千万円（補助率：2/3）
- 補助額：2億6千万円
- 規模等：RC造2階建（988.19㎡）



外観

町の担当者の声

本町にとって漁業は基幹産業であり、当町水産物流通の中心的役割を果たす荷捌施設を今回整備することにより、漁業生産基盤の強化、産地形成力の向上となり、地元水産業の更なる振興及び発展を期待したいと考えています。

利用者の声

今回の荷捌施設整備は、衛生管理の強化、鮮度保持の向上により、消費者へ、新鮮で安心安全な魚介類の提供が可能となり、今後の漁業経営安定や漁家所得向上に繋がることを期待しています。



操業→着岸

水産物の例



真つぶ



鮭（銀聖）



計量



セリ・入札

出荷

祝 北部方面隊創隊65周年

10月15日、陸上自衛隊北部方面總監部において、北部方面隊創隊65周年記念式典が、北海道副知事をはじめ、自衛隊協力諸団体皆様等多数のご来賓のご列席の元、開催されました。



田浦北部方面總監

田浦總監は、式辞で「北部方面隊の隊員であることの誇りを胸に、道、市町村を始めとする関係機関や地域の皆様と緊密な連携を図り、歴代總監及び隊員の築いてきた良き伝統をより発展・充実させ、隊務に精励し、日本国民の、そして道民の皆様の負託に応えるべく、最も強く、最も頼もしい北部方面隊を目指して、精進し続ける。」と述べました。



写真提供：北部方面總監部総務部広報室

平成29年度北部方面隊総合戦闘力演習(北演29)

北部方面隊では、総合戦闘力を最大限に発揮して各種事態に対処する能力の向上を図ることを目的に、毎年1回、北部方面隊総合戦闘力演習を実施しています。

平成29年度は、“北演29”と称し、8月28日から10月5日までの間、北海道内の全域において、海・空自衛隊も含め、過去最大規模となる人員約17,000名、車両約3,200両、多数の航空機及び艦艇等が参加しました。



レーダーによる沿岸監視



沿岸部における火力戦闘(地对艦誘導弾)



航空機運用



救命ドクトリンの実践

写真提供：北部方面總監部総務部広報室

絆

(きずな)

～富良野市と 上富良野演習場の紹介～

富良野市

〒076-8555
北海道富良野市弥生町1番1号
代表電話 0167-39-2300



富良野市



能登 芳昭 市長

■市長あいさつ

富良野市は、北海道の中央部に位置し「へそとスキーとワインのまち」として農業と観光を基幹産業に発展しました。

西方に芦別岳、東方には十勝岳連峰がそびえ、空知川の清流がもたらす肥沃な大地からは、「安全・安心」で消費者の信頼に応えられる品質の高い農産物が生産されています。

昭和56年から放映されたテレビドラマ「北の国から」のロケ地として全国的に「富良野」の知名度が上がり、年間を通じて多くの観光客が訪れています。農村景観に加え、ラベンダーに代表される彩りの花々や日本屈指の規模を誇る「富良野スキー場」、ワイン、チーズなどの特産品、旬の食材を使った食、ごみのリサイクル、へそ祭り、演劇などの地域資源を生かし、日本の顔となる観光地づくりを推進しています。中心市街地の人気スポット「フラノマルシェ」、「フラノマルシェ2」は、開業以来多くの人々で賑わいを見せており、依然好調な入込みが続いています。

また、富良野市では移住希望者への相談窓口を設置しており、移住を検討されている皆様に、富良野の魅力を伝えています。次世代へ向けてさらなる発展を遂げ、「住み続けたいまち、そして、子どもたちに誇れるまち」を目指し、市民と地域、そして行政が一体となって、住み慣れた地域で生きがいを持ち、安心して暮らせるまちづくりを進めています。



ふらのワイン



ふらのチーズ・牛乳



富良野オムカレー



北海へそ祭り



フラノマルシェ

■演習場・自衛隊との関わり

上富良野演習場は、当市の東方に位置し、当市のほか上富良野町、中富良野町にまたがる演習場です。

本年5月に、上富良野駐屯地は当市を含む富良野・美瑛沿線6市町村との間で「連絡体制の強化に係る協定書」を調印し、情報共有の推進を図るなど、地域防災の中核を担っていただき、安心・安全のためにご尽力いただいております。

また、当市の夏の一大イベントである「北海へそ祭り」は、来年第50回を迎えますが、毎年同駐屯地から多くの隊員の皆様にご参加いただき、祭りには欠かせない存在となっております。



富良野市総合防災訓練（避難訓練）

上富良野演習場は、十勝岳の麓に位置し、東西約8km、南北約10km、面積約42km²、最大射程6.5kmの演習場です。

同演習場では、年間約340日、道内外延べ約26万人の隊員が、戦術行動訓練の他、榴弾砲、迫撃砲、戦車砲等の実弾射撃訓練や各種小火器の射撃場として使用し、練度向上のための厳しい訓練に励んでいます。



写真提供：上富良野駐屯地広報室

北海道防衛局長から感謝状の贈呈

北海道防衛局は、毎年、当局業務の円滑な運営と防衛施設の安定的な使用に対し積極的な協力と多大な貢献をされた方々を表彰するため、局長から感謝状を贈呈しています。

今年度は、安平町長 瀧 孝氏、釧路町長 佐藤 広高氏、長沼町長 戸川 雅光氏、足寄町長 安久津 勝彦氏に、古川局長から感謝状を贈呈しました。



安平町長 **瀧 孝氏**
 北海道 旧追分町出身(1943年生まれ)
 平成18年4月～安平町長(現在3期目)
 北海道基地協議会 副会長
 北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会 幹事
 安平町自衛隊協力会 会長



長沼町長 **戸川 雅光氏**
 北海道 長沼町出身(1949年生まれ)
 平成20年8月～長沼町長(現在3期目)
 北海道基地協議会 理事
 北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会 監査
 長沼町自衛隊協力会 会長



釧路町長 **佐藤 広高氏**
 北海道 釧路市出身(1949年生まれ)
 平成18年11月～釧路町長(現在3期目)
 北海道基地協議会 会員
 北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会 幹事



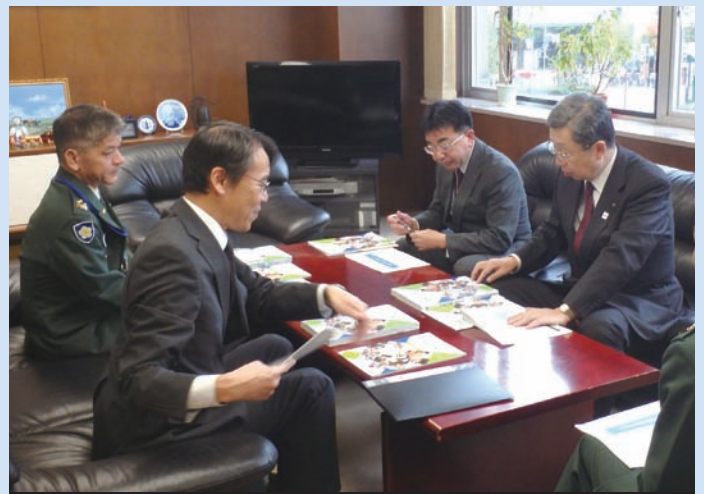
足寄町長 **安久津 勝彦氏**
 北海道 更別村出身(1952年生まれ)
 平成15年5月～足寄町長(現在4期目)
 北海道基地協議会 会員
 北海道自衛隊駐屯地等連絡協議会 幹事

地方公共団体等に防衛白書を説明

北海道防衛局及び陸上自衛隊北部方面隊は、海・空自衛隊及び自衛隊地方協力本部と連携し、道内地方公共団体(道、市町村等195団体)や関係団体などに対し、平成29年版防衛白書の紹介及び概要の説明を行いました。

この防衛白書の説明は、わが国の防衛政策や防衛省・自衛隊の各種施策について、より多くの国民の皆様にご理解を深めていただくとともに、防衛省・自衛隊と地方公共団体等との連携強化を図ることを目的としています。

当局としては、1人でも多くの方々に防衛白書に目を通していただき、わが国の防衛政策にご理解をいただきたいと考えています。



古川北海道防衛局長による窪田北海道副知事への説明

防衛省・自衛隊のウェブサイト <http://www.mod.go.jp/>

平成29年度北海道防衛施設地方審議会開催

9月29日、北海道防衛局において、平成29年度北海道防衛施設地方審議会が開催されました。

同審議会は、古川北海道防衛局長からの諮問に依りて、自衛隊の施設等に係る不動産等の額に関する事項及び自衛隊等の使用により生じた損失の補償額等に関して調査審議し、必要と認める事項を同局長に建議する機関として、7名の有識者による委員で構成され、北海道防衛局に置かれています。

同審議会では、冒頭、古川局長及び石崎会長の挨拶に続き、当局から、本年8月に北海道内で実施された日米共同訓練（ノーザンヴァイパー）について、当局の対応を交えながら説明を行いました。

その後、防衛施設の設置又は運用により生じる障害の緩和等を目的として、防衛省の補助事業で整備した恵庭市消防司令センター、千歳市休日夜間急病センター（ささえーる）及び千歳市環境センター（ゴミ処理施設）を視察しました。



古川局長の挨拶



石崎会長の挨拶

北海道防衛施設地方審議会



千歳市休日夜間急病センター視察

恵庭市消防司令センター視察



北海道防衛施設地方審議会委員

| | |
|----------------|--------------------------|
| 会長 石崎 岳 | 社会福祉法人 北海道リハビリー 理事長 |
| 会長代理 阿部 和加子 | 書道わか葉会 主宰 |
| 山内 睦夫 | 山貴服飾株式会社 代表取締役社長 |
| 稲葉 勝巳 | 一般財団法人日本不動産研究所 北海道支社長 |
| 本下 裕之 | みずほ信託銀行株式会社 札幌支店長 |
| 祖母井 里重子 | 祖母井・中辻法律事務所 弁護士 |
| 大越 良記 | 東日本高速道路株式会社 北海道支社長 |

(敬称略)

北海道殉職隊員追悼式

平成29年度北海道殉職隊員追悼式が10月14日、陸上自衛隊真駒内駐屯地で挙行されました。

追悼式は、新たに認定された8柱の殉職隊員の遺族をはじめ、執行者の田浦北部方面總監、共催者である中西大湊地方總監、城殿北部航空方面隊司令官、古川北海道防衛局長ら約350名が参列し、昭和25年の警察予備隊創設以来の殉職隊員313柱の冥福を祈りました。

式典では、国家斉唱に続き、北部方面音楽隊による「国の鎮め」等を演奏する中、参列者全員が拝礼、黙とうを行いました。